

## 2026年度 SYLLABUS 【博士後期課程】

授業科目名	総合演習 IV 「変化する金融と財政」		
担当教員名	木立 力、山本 俊		
ディプロマ・ポリシー (DP) との関係			
	DP1	DP2	DP3
	○		
科 目 の テ ー マ	<p>この演習では、少子高齢化が経済に及ぼす影響を金融面と財政面から多面的に捉えることを目的とする。主要な関連する分析モデルの特徴を正確に理解することが必要となる。そのうえで、捉えるべき経済現象と政策課題の観点から、それらの分析モデルの有用性と限界についても検討する。</p> <p>1. 金融面では、少子高齢化が資産選択、金融機関経営、金融システムに与える影響を、理論的・実証的な視点から検討する。</p> <p>2. 財政面では、少子高齢化によるマクロ経済と財政の変化をとらえるために主に重複世代モデルを用いた分析について検討する。</p>		
科 目 内 容 ・ 方 法 等	<p>[科目内容]</p> <p>金融面では、①高齢化による貯蓄と資産選択にかかわる理論と実証分析、②資産選択の変化に対応する金融機関の経営戦略、③リスク分担と金融システム設計という3つの論点を主に取り上げる予定である。</p> <p>財政面では、重複世代モデルを基本的視点とするアプローチにより、いくつかの応用的、政策的論点について最新の研究成果もふまえて検討する。このモデルは、労働力率低下による生産、財政収支、貯蓄を捉えるために広く用いられている。基礎理論としては、①直間比率の変化、公的年金の変化がマクロ経済に与える影響、②賦課方式年金縮小、少子化という変化がマクロ経済に及ぼす影響、③財政政策変化、少子化が国際収支に及ぼす影響、④多期間重複世代モデルによる移行過程のシミュレーション分析手法などをとりあげる。そのほか、近年の分析課題として、①先進諸国の少子化による利子率・国際収支変化。②少子化による株価の長期変化。③少子化による私的な世代間移転と公的な世代間移転をとりあげる。</p>		
到達目標：	<p>金融面では、少子高齢化が資産選択や金融機関経営、金融システムに与える影響を、理論的・実証的な視点から説明できること。</p> <p>財政面では、少子高齢化による経済成長、財政収支の理論的理解を深め、それに基づいた応用ができること。</p>		

評価方法及び評価基準：

授業の方法で述べる精読，報告，討論への取り組み状況を総合して，100 点満点で点数化する． 詳細については，授業内で伝える予定である．

授業の方法：

演習は，書籍や学术论文の精読と多面的な視点からの討論によって構成される．担当 教員による報告，討論のほか，受講生による報告，討論を行う．

全体は，①導入的授業，②財政面からの検討，③金融面からの検討，④結論的授業の 順序で進行する予定である．